

人々の生活を支え、命を守る部品を
高度な技術で作製、世界に送り出す。



1 工場ではコンピュータ操作により約50台のCNC旋盤が稼働。完成した部品は出荷検査を行う品質保証部へ運ばれる 2 出荷前の製品検査は目視で行う。傷の有無などを拡大鏡でチェックし、長さや厚みをゲージで測定。顕微鏡で確認することもある 3 約260種ある製品の一部。自動車のエンジンなどに使用される

ものづくりが好きな者同士が
楽しみながら知識と技を高め合う。

自動車やオートバイのエンジン、ブレーキなどに用いられる部品の切削加工を手掛ける竹内工作所。形状やサイズが異なる約260種類の部品を年間約6,000万本生産しています。これらはヨーロッパ、アメリカ、中国などの工場と国内外のメーカーの製品に組み込まれ、国内だけでも500万台近い自動車などに使われています。

切削用のCNC旋盤はコンピュータで制御し、誤差はわずか10μ(0.01mm)以内。同業他社から加工依頼を受けるほど高度な技術を持ち、同社しか削れない部品もあります。優れた技術を支えているのは、「プロ意識をもて」という経営理念と「ものづくりの心」で

す。切削には部品ごとのプログラムがありますが、完成に至るまでに修正が必要な場合がほとんどです。製造スタッフは、プロフェッショナルとしての気概を持って最適な切削手法を考え、多様な顧客のニーズに応えています。また、このようなものづくりの心意気が独自の技術開発にもつながっています。

年齢を超えた社員同士のコミュニケーションが活発なことも同社の特徴です。互いに刺激し合って知識や技術を向上させながら、人命にかかわる部品を確かな品質で提供することを、一人ひとりが心がけています。

竹内工作所の「ワザ」にときめき！

独自の技術

供給ロボットを自社開発し、
製品の流れをスムーズに。

CNC旋盤から排出された製品の洗浄、検査、運搬用トレイへの移動を自動で行う供給ロボットを開発しました。CNC旋盤に連結したロボットが、製品に付着している油の洗浄と内径などの測定を順に行い、一定数が入るトレイに一つひとつ並べて行きます。これによって機械に追われがちだった手作業が大幅に軽減されました。また、ロボット以外にも、製品に合わせて社員が工夫を凝らし作り上げた多様な供給装置が活躍しています。



今後の展望

新しいCNC旋盤を増設。
出荷検査システムの開発も検討。

以前は一定段階まで加工した半製品を切削するCNC旋盤のみを使用していました。しかし2019年に、丸棒状の素材から完成品に加工できるスイス製CNC旋盤を導入し、2021年秋には4台目を設置。人工知能とロボットを連結させた、24時間稼働の出荷検査システムの開発も検討中です。



Question & Answer



代表取締役
竹内 秀夫さん

あわらのココが好き

上空から見ると
ハート型をしている
熊坂・春日神社の社

Q 仕事にはどんな人を求めていますか？

A 何事にも疑問を持って取り組み、チャレンジできる人です。切削は、プログラムをわずかに修正しただけで製品の精度が大きく変わるため、常に疑問を持つ姿勢がさまざまな改善につながります。

Q 就職活動中の学生のみなさんへ

A 会社が目指す方向性や社風はトップの考えから生まれます。会社を選ぶときは規模の大小にとらわれず、社長や代表者が事業の目的と進め方にどのような考えを持っているか確認しましょう。

こんな職場です

“和気あいあい”は
日常風景です。



社員同士はもちろん、社長とも気軽に話し合えるオープンな雰囲気の会社です。思いついたアイデアや仕事のやり方などについて活発に意見を交わすことが、製品の質の向上にもつながっています。



有限会社 竹内工作所

〒919-0723 あわら市熊坂33-12-1
TEL.0776-75-2201 FAX.0776-75-2202
✉ tk-8207@mx4.fctv.ne.jp

設立:1988年/代表:代表取締役 竹内 秀夫/資本金:600万円/売上:2億円(2020年度)/従業員数:34人/平均年齢:39歳/勤務地:同上/勤務時間:8:00~17:00/福利厚生:社会保険、退職金共済、財形